



協会70年の歩み

▶ はじめの一步

1955年1月24日、神奈川県寄生虫予防協会が任意団体として発足。寄生虫予防が、70年のはじめの一步でした。当時は、場所も、お金もなく、どうにか借りた県衛生研究所の一隅で、検査を行いました。はじめて検査室を構えたのは1957年、初代理事長宅の庭先でした。寄生虫検査から始まった歩みは、その後、児童生徒腎臓病検診、消化器検診へと範囲を広げ、1964年に財団法人神奈川県予防医学協会を設立、2012年に、公益財団法人として認可されました。

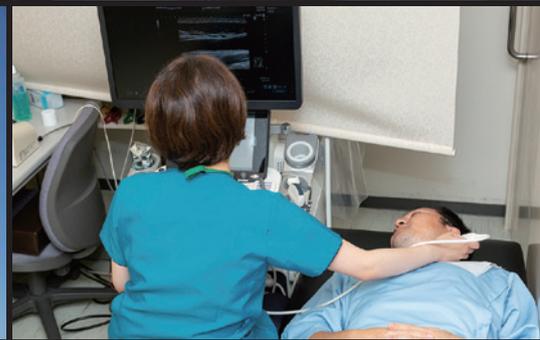
▶ 検診車、発進

1963年、横浜市中区長者町に中央診療所を開設し、胃がん検診を開始しました。翌年には、協会初の胃がん検診車「長寿号」が本格稼働。検診車は、中央診療所から離れた地域へも赴くことができ、早期発見と治療促進に尽力しました。また、検診車には検診を受ける機会を増やし、健康への意識を高める狙いがありました。現在、胃がん検診車は「長寿29号」に。胃がん検診車の他に、子宮がん検診車、マンモグラフィ検診車が、最新の医療技術を搭載し、地域社会の健康を守るため、日々発進しています。

協会の沿革

- 1955(昭和30)年 1月24日 ●神奈川県寄生虫予防協会が任意団体として発足
●寄生虫検査を開始
- 1959(昭和34)年 9月 ●胃がんのスクリーニングテストとして便潜血反応検査を開始
- 1962(昭和37)年 7月 ●腸内細菌検査を開始
- 1963(昭和38)年 6月 ●消化器検診を開始
10月 ●児童生徒腎臓病検診を開始
- 1964(昭和39)年 3月25日 ●財団法人神奈川県予防医学協会設立
7月 ●血清反応検査を開始

- 1966(昭和41)年 4月 ●児童生徒心臓病検診を開始
●一般健康診断を開始
●特殊健康診断を開始
- 1967(昭和42)年 10月 ●作業環境調査を開始
- 1968(昭和43)年 4月 ●児童生徒糖尿病検診を開始
- 1969(昭和44)年 1月 ●子宮がん検診を開始
2月 ●精密総合検診(人間ドック)を開始
- 1972(昭和47)年 4月 ●集団検診センター
横浜市金沢区鳥浜町に開所



約25,550日……一步一步、進んできた
70年の歳月を写真とともに振り返ります。

▶ 検査の前進

長期欠席児童の多くが腎臓病であることをつきとめ、1963年に、児童生徒腎臓病検診（学校検尿）を開始しました。同年に胃がん、1969年に子宮がん、1996年にヘリカルCTを用いた肺がん検診など、医療技術の進歩とともに、最新テクノロジーを取り入れ、協会の検査技術も前進しました。1972年には、金沢区に集団検診センターを開所し、労働衛生関連の検査や作業環境調査の拡充をはかりました。寄生虫検査からはじまった歩みは、現在、母子保健、学校保健、地域保健、産業保健、環境衛生など、幅広い分野で活動を展開しています。

▶ 未来へ続く道

2026年早春、みなとみらい地区へ移転します。45年を過ごした現在の中区・日本大通ビルから、一步踏み出します。今はまだ、まっさらなフロアを“快適な健診環境”に作り上げるため、看護師、臨床検査技師、放射線技師、医師、保健師、渉外担当ら、協会で働く様々なスタッフが意見を交わしています。健診時の動線の見直し、プライバシーの配慮、受診者にも、スタッフにも、安全で快適な環境であること……、新拠点への準備は、協会が掲げる理念について、あらためて考え、実践するきっかけとなりました。たくさんの使命と希望とともに、協会は新たなステージへと歩みを進めています。

1973(昭和48)年	4月	●保健相談を開始
	11月	●水質検査開始
		●肺がん検診を開始
		●婦人検診を開始
1976(昭和51)年	11月	●先天性代謝異常症の検査開始
1979(昭和54)年	8月	●簡易専用水道検査を開始
1982(昭和57)年	3月	●大腸がん検診を開始
1989(平成元)年	5月	●健康づくりプログラムを開始
1992(平成4)年	4月	●腹部超音波検査を開始

1995(平成7)年	4月	●骨粗しょう症予防検査を開始
1996(平成8)年	4月	●ヘリカルCTによる肺がん検診を開始
1998(平成10)年	4月	●前立腺がん検診を開始
2003(平成15)年	3月	●ストレスチェックを開始
	11月	●血圧脈波検査開始(人間ドック)
2008(平成20)年	4月	●特定健診・特定保健指導開始
2012(平成24)年	4月	●公益財団法人の認定を受ける
2016(平成28)年	4月	●寄生虫卵検査が児童生徒などの健康診断の必須項目から削除される